

【絶対服従】鬼畜講師の調教部屋
～弱みを握られ、飼われる道しか与えてもらえませんでした～

サンプル（一部抜粋）

【専門学校・教官の準備室】

（ノック音・引き戸が静かに開く音）

「...はあ。やっときたか。1分遅刻だ。
俺の時間をなんだと思っている？」

「.....怯えた顔をするな。
質問にはきちんと答えろ。いいな？」

「...ドアを閉めて、この椅子に座れ。」

「信じてもらえるなら、えっちなことでもなんでもする...と？
はっ（あざ笑う）
お前のその行為に、それだけの価値があると思っているのか。」

「（クスクスと楽しそうに笑う）顔を赤くして...いじめ甲斐がある。
テクニックに自信があるのか？
男遊びをするようなタイプでもないだろうが。」

「...じゃあこっちに來い。
俺はな、何もない女が好きなんだ。」

「どうしてって...
何もないやつに何かを与えて、墮としていくのが楽しいからだ。
大丈夫、お前も1時間後にはそうなっている。」

（椅子から立ち上がる音・女性の足音）

「靴を脱いで足を開いて、ソファに座れ。」

（ゆっくりと沈むソファのギシ音・足を開く布の擦れた音）

「.....何もない女が何かを得る...
創造的だろう？」

（ぐちゅっと支配するようなリップ音）

「...もっと必死に俺に応えろ。
俺に犯されるだけじゃ、お前は一生変わらないぞ。」